

STUDENTS

つくばスチューデント

2009年1月号



2008安全キャンペーン風景（図書館情報エリア）

共創的コミュニティの創出に向けて～T-ACT本格始動！～

2008安全キャンペーン週間を振り返って

卒業生だより／学群・学類だより

つくばの仲間たち／課外活動リーダー研修会報告

連載：つくば百景（5）／連載：つくばスポーツライフ（6）

インターネット版つくばスチューデント URL
<http://www.tsukuba.ac.jp/public/students/>



筑波大学
University of Tsukuba

卒業生 だより

どこから来てどこへ行くのか

西丸 広史 (医学専門学群 平成6年卒業
人間総合科学研究科 若手イニシアティブ 准教授)



現在の私

昨年の1月に筑波大学大学院「次代を担う若手大学人育成イニシアティブ」プログラムの医学・生理学分野で、人間総合科学研究科の教員として着任しました。生理学はその名の通り、「生命の理(ことわり)」を明らかにする学問で、私の専門分野は神経生理学ということになるでしょうか。現在は主にマウスの脊髄で哺乳類の歩行運動神経回路の作動メカニズムの解明を目指して研究しています。私たちの複雑な心と体の動きは、脳や脊髄などの中枢神経系にある神経細胞が構成する神経回路によって生み出されていると考えられています。しかし、個々の神経細胞の活動がどのように組み合わせられてこれらの回路の複雑な出力パターンを生み出しているのかはまだほとんどわかっていません。私たちは伝統的な生理学的研究手法と最近主流になった神経細胞を蛍光タンパク質で可視化する技術や特定の遺伝子を破壊する遺伝子改変技術などを組み合わせることで、歩行をはじめとする運動を引き起こす神経メカニズムを調べています。それから医学群やフロンティア医科学で生理学の講義や実習を担当しています。

筑波大学に入学してから生理学の研究者になるまで

「なぜ基礎医学の研究者になったのか」とときどき聞かれます。いつだったかははっきりと思い出せませんが、高校生くらいのとき「私はいったいなにもものだろう？」という(おそらく)誰もが一度は考える問いに対して、脳のしくみを勉強すれば答えが見つかるかもしれ

ないと漠然と考えたのがおそらく原点なのではないかと思います。もちろん晴れて大学に入学するとしばらくはそんなことは忘れてしまって、サッカーばかりしていたり、週末に東京に遊びに行って夜遅くに東京駅八重洲南口の高速バスつくば行き乗りの長蛇の列に並んだりしていたわけですが、学群の三年生のときに私よりずっと学問に熱心な友人たちに誘われて基礎医学系の生理学グループ研究室に出入りし始め、授業が終わってから英語の専門書の輪読会に参加したり、小さなプロジェクトを頂いて実験したりしていました。大学院に進んで研究者を目指したのは、このときにリアルタイムでオシロスコープに映し出される神経細胞の電気活動の美しさに魅せられて、こういうことを一生仕事としていくことができると幸せだろうなと思ってしまった、というのが大きいのですが、もしあのときにこうした友人たちや先生方に出会っていなければ私は違う道に進んでいたかもしれません。大学院を卒業して、ポスドク、助手や研究員として大学や研究所を渡り歩き(と言っても筑波大学とあわせて3つほどですが)、10年目で天久保池のほとりにある総合研究棟D(通称D棟)の一室に初めて自分の研究室を頂きました。この間、素晴らしい師や仲間恵まれ、研究は孤独であると同時に一人では決して成しえないということが骨身にしみました。そしてなにより朝から晩まで自分たちで考えて実験してまとめた結果を世界に向けて発表する、というとても自由な職業についている贅沢をひしひしと感じています。現在は歩行の研究をしていますので「私はなにものか」というよりもむしろ「私たちはどこから歩いて来たのか」ということがメインテーマになっているようにも見えますが、将来はさらに「そして私たちはどこに向かうのか」という研究に発展させていきたいと思っています。